

高田教区宗祖親鸞聖人750回御遠忌

御遠忌通信

第2号

発行日 2012年9月1日
 責任者 森田 成美
 編集 御遠忌広報実行委員会
 連絡先 真宗大谷派高田教務所
 上越市寺町 2-24-4
 TEL: 025-524-3913
 FAX: 025-524-2645



高田別院山門



新井別院本堂

高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌・基本計画

高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌推進委員会において策定された御遠忌の基本計画が、年度当初の教区会及び教区門徒会において可決承認されましたのでご報告いたします。

【法要名称】

高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

【法要日程】

二〇一八年四月十八日(水)

四月二十一日(土) 於 高田別院

二〇一八年四月二十三日(月)

四月二十四日(火) 於 新井別院

※四月二十二日(日)は記念大会等を実施する

【記念事業】

- ① 高田別院 山門修復
- ② 高田別院 納骨堂改築
- ③ 新井別院 本堂屋根修復
- ④ 教区教化体制の見直し
- ⑤ 記念出版

なお、御遠忌テーマについては、本紙二頁～三頁に掲載しております。また、記念行事の内容等、総予算及び募財総額は現在も検討中です。

今後、記念事業として計画されている高田別院山門と新井別院本堂屋根の修復の本調査を行い、具体的な修復方針を確定するとともに、御遠忌法要の儀式や行事等の詳細を審議し、来春には詳細な総計画をお示しできるよう協議を進めております。その後、諸機関の会議を経て、総計画に基づく各寺院・ご門徒への募財期間として、二〇一三年四月一日から二〇一七年十二月三十一日までと計画されております。

私はどこで生きているのか

～たずねよう 真宗の教えに～

高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要

テーマ決まる

テーマを生み出すまで①

高田教区では、二〇〇七年に宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌お待ち受けとして「越後御流罪八〇〇年法要」を勤めた。親鸞聖人は流罪生活を通して、人間としてのいのちを赤裸々に生きている「いなかのひとびと」と出遇い、本願念仏の教えこそ国を超え、時代を超えていく共なるわれらの道であることを確信された。その流罪に心を致し、宗祖の歩みをたずねるべく「流罪からの出発」を教区の教化テーマとした。また、私たちは何を依りどころとして生きるのかをあらためて問われていることから、サブテーマを「私はどこで生きているのか」として、自己の立脚地を見つめ直すことを重点としての教化活動を行ってきた。

テーマの策定では多くの方の意見を聞くというごとと、関心を持っていただくという観点から全寺院を対象とした意見聴取を実施した。この意見聴取から「流罪からの出発」は私はどこで生きているのか」として推し進められた事業が一定の評価を受け、流罪の意義が意識されたことがうかがえた。さらにこのテーマがどのように深まりをもったか確認するために、教化委員会では次の三項目を観点として部門ごとに検討を重ねた。それは、①このテーマによって自身に何が明らかになったか ②今の時代、社会をどのようにとらえるか ③教区御遠忌で闡明にすべき課題と視座の三点である。

以上のように、教化委員会各部門の意見や、

意見聴取の声を参考に「テーマ策定実行委員会」で議論を重ねてきた結果、教区御遠忌テーマ「私はどこで生きているのか たずねよう真宗の教えに」という言葉を生み出した。流罪という文字は入っていないが、決して流罪のもつ意義、そしてそこからの問いかけを離れたところにこのテーマの存在はなく、あらためて流罪のもつ意義をたずね、自己の立脚地を明らかにしなくてはならないという意味をこめてのテーマである。

テーマの趣旨と願い

教区では、御遠忌に向けて実施した教化活動の点検作業を二〇一〇年度に実施した。この中で明らかになった課題の一つが、教区教化事業の行き詰まり状況という問題であった。特に本山御遠忌に向けた教区の取り組みや教化事業の認知度の低さ、参加状況の低さはどこに原因があるのか、早急に解決しなければならぬ課題が明らかになった。この課題の克服が、教区御遠忌の推進・円成に不可欠なものと考え、テーマ策定に当たり、「今」という時代認識、社会認識、なにかなく教区の現況をどのようにとらえるかという論議から出発することになった。教区御遠忌をどのようなものとして構想するかは、御遠忌そのものの意義、宗祖としての親鸞聖人にどのように遇うかということと併せて、教区の現況をどのように見るかという視座が必要である。

親鸞聖人がいのちがけて伝えようとした念仏

の教え、私たちはその教えに「遇う、聞く、帰す」ことを通して教区御遠忌を迎え、これからの生きる指標にしたいと思う。しかし、自身の生活が真宗門徒としての生活と言いつれもない弱さ、自信のなさがつきまとっている。さらに言えば、そのことに気付かない、気付いても避けようとしている姿として露呈しているのではないのか。私たちは宗祖御遠忌を通して、あらためて何を依りどころとして生きているのかということが問われている。そのような中で、これまで教区教化のサブテーマとしてきた「私はどこで生きているのか」をメインテーマとし、自身への問い、確かめる言葉として生み出した。「どこで」は「自己の立脚地と内実を問う言葉」である。さらに、「私はどこで生きているのか」という、自身の依りどころを明らかにしようとする索するうえで、「たずねよう 真宗の教えに」をサブテーマとし、方向性を示す言葉として設定した。私の依りどころを、どこまでも宗祖の心に寄り添いながら求め、確かめていく、そんな求道の営みに期待したい。「たずねる」は、「聞く」「語り合う」「伝え合う」行為を通して明らかにしていくことである。

これまでも指摘され続けている宗門の「閉塞感」と「危機感の希薄さ」は当教区とて例外でない。家の宗教に安住し、「常に自信教人信の誠を尽くし、同朋社会の顕現に努める」ことを怠り、自分の思いに閉じこもり自己満足して座り込み、歩みだそうとしない。そして、そういう姿勢に気付かず、そのことに危機感も感じて

いないという現実を厳しく問うことが必要である。この度の教区御遠忌が、自分の中あるいは教区の中にある負の姿を明らかにし、「私はどこで生きているのか」をあらためて確かめる、そんな歩みになることを願っている。そして、「真宗の教えにたずねる」プロセスが、お寺は何のために存在するのか、僧侶はどのような任務を担っているのか、私は何を為すために生まれ、生きているのかという根源的な問いに真向かうことにもなる。今後、テーマをめぐる寄り合い談合が生まれ、テーマが自身の行き方を振り返るきっかけとなり、結果として教区あげての御遠忌ができたという喜びが共有できることを願ってやまない。



高田別院納骨堂

こえんき

高田教務所長 森田 成美

いきなり私事で申し訳ありませんが、一九五四（昭和二十九）年に長崎で生を授け、今日迄五十八年間、大きなご縁の中でお育てにあつてまいりました。生れ育った長崎で、入寺した金沢で、教務所勤めをさせていただいた各地で多くのご縁に恵まれて今日があるのですが、そのご縁によって念仏に生きる真宗門徒となりえているかと自らに問うと、お恥しいと言うほかありません。池田勇諦氏講述の『法事をつとめる』の中に、鯛の丸干しの上で昼寝をしている長崎の猫の話が紹介され、「先祖代々の真実の生き方を問いたずねる素晴らしいご縁をいただいておりますから、その上で昼寝をしているのです。長崎の猫というのは他人ごとではありません。」と語っておられます。

長崎生れの長崎の猫がここに居りました。昼寝から覚めるご縁を御遠忌に賜わりたいと願います。

高田教区同朋大会開催のお知らせ

【同朋大会への願い】

「私はどこで生きているのか ～たずねよう真宗の教えに～」という言葉に込めた願いと背景を教区人のすべてが共有することを願いながら、同朋大会を開催いたします。

日 時	2012年9月20日(木)
時 間	13時30分 受付
会 場	高田別院本堂
記念講演	よつっじ ^{あきら} 四衢 亮 氏(高山教区不遠寺住職)
講 題	「私はどこで生きているのか ～たずねよう真宗の教えに～」

※どなたでもご参加いただけます。

◇ 高田教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要厳修までの日程 ◇

- 2012年
年内 … 高田別院山門・新井別院本堂屋根調査終了、総予算策定
- 2013年
1～2月 … 総計画案(予算、割当方法、行事内容等)策定
2～3月 … 総計画案説明のための教務所長巡回、再検討(推進委員会)【予定】
3月 … 参事会・常任委員会合同会議、教区会(臨時会)、教区門徒会(臨時会)【予定】
4月1日 … 募財開始
- 2017年
12月31日 … 募財終了
- 2018年
4月18日～24日 … 御遠忌法要

ひとゆめ

御遠忌通信の第二号をお届けします。先日、私用で京都を訪れた際、本山・東本願寺にお参りしました。昨年の御遠忌を円成し平常に戻った境内、お堂の中は休日だったにもかかわらずのんびりとした空気が流れていて、学生時代何とはなしに本山に行つてぼーっとしていた日々を思い出しました。「人が集まり、念仏の音が巻き起こり、仏法沙汰がなされなければそれはただのガランドウであり、お堂とは呼べない。」と昔教えていただいたことを、今でも諸行事の時に自ら問いなおしていますが、人が集まる場所を維持し抛り所とするというのも大切な役目なのだと改めて感じました。もちろん記念事業ありきの御遠忌ではいけません、次の代に念仏の教えを引き継ぐためのきつかけとしての六年間を過ごし、二〇一八年を迎えることが出来ればいいのではないか。そのように感じています。

(矢嶋 一樹)